

# 昭和55年度漁況海況予報事業 結果報告書

## I 調査の実施状況

### 1. 実施機関および担当者名

沖縄県水産試験場 漁業室

次長兼室長 嘉 数 清 (総括)  
兼 浜 安 信 (調査)  
川 崎 一 男 (調査)  
喜屋武 俊 彦 (調査・卵稚仔取りまとめ)  
山 本 隆 司 (調査)  
金 城 清 昭 (調査・海況取りまとめ)  
海老沢 明 彦 (調査)

### 2. 沖合定線調査

#### 1) 実施調査船

船 名：函 南 丸

乗組員：船長 赤 嶺 正 弘 他17名

総トン数：216.09トン 速力11ノット

主機関：新潟鉄工所製 6MG25BX, 1,000PS×1基

補機関：ヤンマーディーゼル製  
2KFL-T, 185PS×2基

測深機：鶴見精機製 TS-VS I型

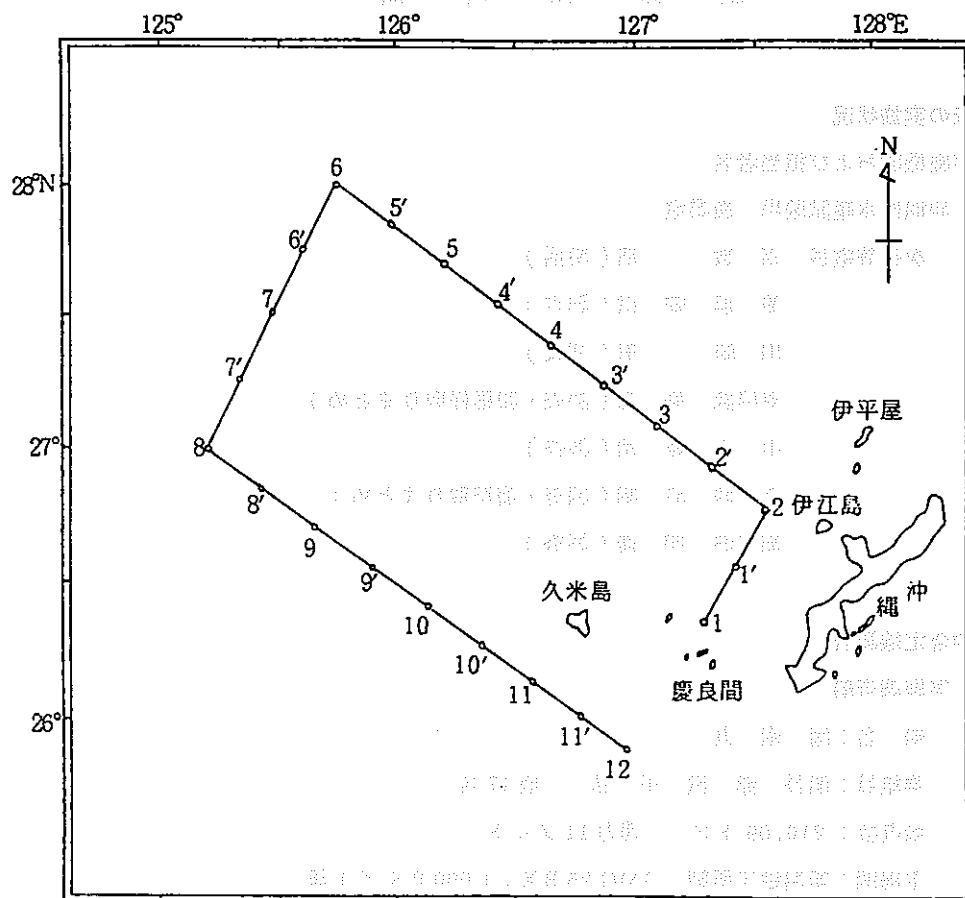
ワイヤー, 2.1%, 1,500m

音響測深機：日本無線, NJA-820-B

サリノメーター：鶴見精機製 TS-E2

2) 観測定線概要図

図1 参照



図一 久米島北西沖合定線図

3) 調査項目

注) 図中の数字は、定点番号を示す。

- a) 水温・塩分の各層観測<sup>\*</sup> (0.10.20.30.50.75.100.150.200.300.400.500.600.800m層) 12点
- b) BT及びDBT観測 11点
- c) 一般気象海象 23点
- d) GEKによる表面流況観測 23点
- e) 卵・稚子魚採集 丸稚ネット(口径130cm)の約2ノット、5分間の表層水平曳 12点
- f) プランクトン採集 丸特ネット(口径45cm)の約2ノット、150m深から表面までの垂直曳 12点
- g) 潮目、DSL等 適時
- h) 栄養塩<sup>\*\*</sup>  $\text{NO}_2\text{-N}$ 、 $\text{NO}_3\text{-N}$ 、 $\text{NH}_4\text{-N}$ 、 $\text{PO}_4\text{-P}$  について0m層から300m層までの各層について定量 12点

\*: 400m層以深は、黒潮の開発利用調査研究(KER)による。

\*\* : この項目は、\*と同様。